

「光の道」構想に関する意見

意見提出元	個人
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	<p>現在ブロードバンド基盤の未整備エリアは全所帯の10%であり、数字上では大半の需要を満たしていると考えられるが、残りの地域は島部をはじめ過疎地であり、投資費用は都市部の数十倍と推定されます。今回提案された五カ年で光の道を完成するには投資地域の顧客の需要を考えれば、現状では、莫大な投資と使用されない設備が残るだけの結果と考えられます。換言すれば植物(コンテンツ需要)の無い砂漠に水(金)を撒くようなものと考えます。施設の地域の光の利用率の低さの原因は二つ考えられ、1)は既設電話料金と光の電話料金の高さの差額。2)は顧客の必要とするサービスがないことです。</p> <p>電電公社民営化後の現状を見ると、固定電話においては競争相手の会社は今では当時想定した顧客メリットへの対応策は何も無く、携帯電話でのみ競争し顧客メリットを提示している状態であり、特に光ケーブルの敷設に殆んど無関心で、どれだけ投資しているかも不明であることは不可思議である。</p>
<p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。</p>	<p>超高速ブロードバンドの利用率の低さは前項にも記述したが、コンテンツの開発そのものに掛かっていることは言を待たない。携帯電話のコンテンツを見れば判るとおり毎日のように各社が競って開発し、其の量とスピードは驚くべきものがある。この原因はあくまで開発した会社に利益があるからである。一方光のブロードバンドのコンテンツは競争体制に無く、光投資は政府方針で元電電公社が主に施工、競争会社は殆ど投資をしていない。競争会社では光を使用するブロードバンドコンテンツがあるとしても、自前投資は利益に結びつかないので、利益に見合う安い料金でNTTから借りようとし、それが思うようにいかないと止めて置くとの姿がありありであり、政府方針もこれを何故か容認しているようでもある。一方NTTも競争の無い固定電話に安住し、携帯電話のような競争体制にも無いことから開発に力が入らないのは‘むべなるかな’である。要は投資と競争、是がばらばらな方法で行われ、競争があらゆる発展の基礎である中に不平等の石ころが転がっているのが利用率を妨げている主たる原因であると考えます。又電気通信の基本である線路伝送(局外)技術と交換(局内)技術を分離し光促進組織を別途考えているのは、何のためなのか理解しがたい。</p>